

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成29年2月2日(2017.2.2)

【公表番号】特表2016-500263(P2016-500263A)

【公表日】平成28年1月12日(2016.1.12)

【年通号数】公開・登録公報2016-002

【出願番号】特願2015-547562(P2015-547562)

【国際特許分類】

C 12 Q	1/66	(2006.01)
C 12 N	1/19	(2006.01)
C 12 N	1/21	(2006.01)
C 12 N	5/10	(2006.01)
C 12 N	15/09	(2006.01)
C 12 N	1/15	(2006.01)

【F I】

C 12 Q	1/66	
C 12 N	1/19	
C 12 N	1/21	
C 12 N	5/00	1 0 1
C 12 N	15/00	A
C 12 N	1/15	

【手続補正書】

【提出日】平成28年12月12日(2016.12.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

　アッセイシステムであって、

　(a) 蛍光体に結合される生物活性剤と、

　(b) 生物発光リポータに融合される細胞ターゲットと、

　(c) 生物発光リポータの基質と、

　を含むアッセイシステム。

【請求項2】

　前記生物活性剤は、小分子である、請求項1に記載のシステム。

【請求項3】

　前記蛍光体は、カルボキシローダミン類似体である、請求項1に記載のシステム。

【請求項4】

　前記生物発光リポータは、SEQ ID No. 1と少なくとも70%の配列同一性を有するポリペプチドを含む、請求項1に記載のシステム。

【請求項5】

　前記(a)及び前記(b)が、細胞中に存在する、請求項1に記載のシステム。

【請求項6】

　前記(b)が、融合体として細胞内に発現される、請求項5に記載のシステム。

【請求項7】

　前記(a)が、細胞外で加えられ、かつ、細胞に進入する、請求項5に記載のシステム

。

【請求項 8】

前記細胞ターゲットが、生物活性剤の結合パートナーである、請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 9】

前記生物発光リポータの発光スペクトラムが、前記蛍光体の吸収スペクトルと重なる、請求項 8 に記載のシステム。

【請求項 10】

前記生物活性剤の前記細胞ターゲットへの結合において、前記生物発光リポータによる前記基質の反応生成物への変換により、B R E T による前記蛍光体の励起及び前記蛍光体からの蛍光発光が生じる、請求項 9 に記載のシステム。

【請求項 11】

前記 (a) は、前記蛍光体に結合される前記生物活性剤のライプラリの 1 つである、請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 12】

前記 (b) は、前記生物発光リポータに融合される複数の細胞ターゲットの 1 つである、請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 13】

前記生物活性剤又は前記蛍光体に結合される前記生物活性剤が、非自然の化学合成によって生成される、請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 14】

生物活性剤の細胞ターゲットへの結合を検出する方法であって、請求項 1 ~ 13 の一つに記載のシステムを含む、方法。

【請求項 15】

請求項 1 ~ 13 の一つに記載のシステムを含む、細胞。

【請求項 16】

生物活性剤と細胞ターゲットとの間の相互作用を検出するための方法であって、(a) 前記細胞ターゲットと第 1 の波長でエネルギーを放出する生物発光リポータとの融合体を、細胞内で発現することと、

(b) 蛍光体に結合した前記生物活性剤に、前記細胞を接触させることと、ここで、前記蛍光体は前記第 1 の波長でエネルギーを受け、かつ、第 2 の波長でエネルギーを放出し、

(c) 前記生物発光リポータの基質に、前記細胞を接触させることと、

(d) 前記第 2 の波長のエネルギーを検出することと、ここで、前記第 2 の波長での前記エネルギーの存在は、前記生物活性剤の前記細胞ターゲットとの相互作用を示し、を含む方法。